

## 1 主要野菜の生産出荷状況

種類	6月の価格情報			7月 (参考)保証基準額の算定の基となる平均価格	入荷量及び主要産地	生育及び価格の7月上旬までの見通し			「図の見方」 現時点の価格水準 平均価格 今後の価格水準		
	指定野菜の関東・近畿ブロック別平均販売価額					上旬	中旬	下旬			
	上旬	中旬	下旬								
葉茎菜類	キャベツ	67.20	78 (116%)	99 (147%)	88 (131%)	74.19	・入荷量: 15,447t ・主産地: 群馬(71)、岩手(11)	平均価格 ↓	<ul style="list-style-type: none"> <li>群馬産は春先の気温高等、天候に恵まれ生育は順調で、前進出荷傾向となっていることから、引き続き平年より多めの出荷の見込み。</li> <li>群馬産が、平年より多めと見込まれることから、現在平年を上回っている価格は、平年並みに推移する見込み。</li> </ul>		
		81.66	90 (110%)	107 (131%)	97 (119%)	88.91	・入荷量: 3,681t ・主産地: 群馬(56)、長野(34)	平均価格 ↓			
	たまねぎ	78.12	125 (160%)	131 (168%)	125 (160%)	93.34	・入荷量: 9,073t ・主産地: 兵庫(42)、佐賀(26)、香川(9)	↑	<ul style="list-style-type: none"> <li>兵庫産は、べと病等の発生により、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。佐賀産は、天候不順による小玉傾向に加え、べと病等の影響により、引き続き平年をかなり下回る出荷の見込み。香川産は、中生及び晚生ともに天候不順のため生育が遅れ、べと病等が発生していることから、引き続き終盤まで平年より少なめの出荷の見込み。</li> <li>兵庫産、香川産及び佐賀産が平年より少なめ、若しくは大幅な減少と見込まれることから、現在平年を上回っている価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。</li> </ul>		
		78.12	163 (209%)	156 (200%)	139 (178%)	93.34	・入荷量: 4,009t ・主産地: 兵庫(81)、佐賀(6)、長崎(6)	↑			
	ねぎ (関東は白ねぎ、近畿は青ねぎ)	277.31	449 (162%)	423 (153%)	416 (150%)	287.00	・入荷量: 3,946t ・主産地: 茨城(61)、千葉(12)	↑	<ul style="list-style-type: none"> <li>茨城産及び千葉産は、トンネル作から露地作の切り替えによる端境期を迎えているものの、今後増加していく露地物の生育が順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。</li> <li>茨城産及び千葉産の出荷が平年並みと見込まれることから、現在平年を大幅に上回っている価格は、平年に近づくものの、引き続きその水準は平年を上回る見込み。</li> </ul>		
		334.73	479 (143%)	373 (111%)	311 (93%)	487.13	・入荷量: 224t ・主産地: 鳥取(44)、北海道(19)、大分(14)、茨城(8)	↑			
	はくさい	67.05	76 (113%)	86 (128%)	54 (81%)	58.82	・入荷量: 5,841t ・主産地: 長野(87)	↑	<ul style="list-style-type: none"> <li>長野産は、干ばつ気味のところ、梅雨入りによる適度な降雨により生育が順調となったことから、引き続き平年よりやや多めの出荷の見込み。</li> <li>長野産の出荷が平年よりやや多めと見込まれることから、現在平年を下回っている価格は、引き続き平年を下回って推移する見込み。</li> </ul>		
		74.06	98 (132%)	87 (117%)	54 (73%)	62.79	・入荷量: 2,693t ・主産地: 長野(96)	↑			
	ほうれんそう	376.10	487 (129%)	475 (126%)	468 (124%)	583.95	・入荷量: 973t ・主産地: 群馬(27)、茨城(21)、栃木(20)、岩手(13)	↑	<ul style="list-style-type: none"> <li>群馬産は、6月の干ばつ気味の天候により生育が遅れていることから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。茨城産は、日照不足ではあるものの、生育は順調であり、引き続き平年並みの出荷の見込み。栃木産は、暖冬による前進出荷の影響により、冬春ほうれんそうの切りが早くなったことから、引き続き平年よりかなり少なめの出荷の見込み。</li> <li>茨城産の出荷が平年並みと見込まれるもの、群馬産及び栃木産が平年より少なめ、若しくはかなり少ないと見込まれることから、現在平年を上回っている価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。</li> </ul>		
		416.73	561 (135%)	558 (134%)	579 (139%)	670.86	・入荷量: 456t ・主産地: 岐阜(77)、北海道(10)	↑			
	レタス (結球)	120.13	138 (115%)	111 (92%)	95 (79%)	120.13	・入荷量: 9,485t ・主産地: 長野(83)、群馬(12)	↑	<ul style="list-style-type: none"> <li>長野産は、干ばつ気味のところ、梅雨入りによる適度な降雨により生育は順調となったことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。</li> <li>長野産の出荷が平年並みと見込まれることから、現在平年を下回っている価格は、引き続き平年を下回って推移する見込み。</li> </ul>		
		125.61	152 (121%)	115 (92%)	98 (78%)	125.61	・入荷量: 2,028t ・主産地: 長野(98)	↑			
果菜類	きゅうり	189.84	240 (126%)	232 (122%)	275 (145%)	221.22	・入荷量: 7,667t ・主産地: 福島(41)、岩手(15)、秋田(11)、山形(6)	↑	<ul style="list-style-type: none"> <li>福島産は、生育は順調で、半促成物が前進出荷傾向、露地物も出荷が増加していることから、今後も平年よりやや多めの出荷の見込み。岩手産は、平年よりやや少なめの出荷量となっているものの、今後は露地物の増加に伴い、平年並みの出荷の見込み。秋田産は、露地物が曇天及び降雨の影響によりやや生育が遅れているものの、引き続き平年並みの出荷の見込み。山形産は、夜温が低いことから引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。</li> <li>山形産が平年よりやや少なめと見込まれるもの、福島産の出荷がやや多め、岩手産及び秋田産が平年並みと見込まれる中で、強い引き合いにより現在平年を上回っている価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。</li> </ul>		
		186.08	262 (141%)	222 (119%)	251 (135%)	232.80	・入荷量: 1,906t ・主産地: 福島(35)、北海道(20)、愛媛(14)	↑			
	トマト (大玉)	230.55	248 (108%)	269 (117%)	272 (118%)	252.46	・入荷量: 8,529t ・主産地: 青森(17)、北海道(12)、岩手(9)、千葉(9)、栃木(9)、福島(9)	↑	<ul style="list-style-type: none"> <li>青森産は、天候に恵まれ適度な降雨もあり、生育は順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。北海道産は、日照不足で着色不良となっていることから、平年よりやや少なめの出荷となっているものの、天候が回復してきていることから、今後は平年並みの出荷の見込み。岩手産は、日照不足や低温により、一部で病害等が発生しているものの、引き続き平年並みの出荷の見込み。千葉産は、春作に加え、夏秋作の本格出荷が始まり、平年よりやや多めの出荷となっているものの、今後は春作が終盤を迎えることから、平年並みの出荷の見込み。</li> <li>青森産、岩手産及び千葉産の出荷が平年並みと見込まれる中で、北海道産が平年並みに回復すると見込まれることから、現在平年を上回っている価格は、平年並みに推移する見込み。</li> </ul>		
		239.96	274 (114%)	292 (87%)	280 (84%)	298.46	・入荷量: 1,735t ・主産地: 北海道(45)、熊本(11)、岐阜(10)	↑			
	なす	311.92	396 (127%)	415 (133%)	365 (117%)	230.51	・入荷量: 4,469t ・主産地: 栃木(25)、茨城(25)、群馬(25)、福岡(5)	↑	<ul style="list-style-type: none"> <li>栃木産は、6月以降の適度な降雨により生育が順調となったことから、平年並みの出荷となっており、引き続き平年並みの出荷の見込み。茨城産は、生育は順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。群馬産は、ハウス物の出荷が少なめの出荷となっているものの、露地物の生育が順調なため、引き続き平年並みの出荷の見込み。</li> <li>栃木産、茨城産及び群馬産の出荷が平年並みと見込まれることから、現在平年を上回っている価格は、平年並みに推移する見込み。</li> </ul>		
		271.01	360 (133%)	349 (129%)	300 (111%)	232.81	・入荷量: 1,049t ・主産地: 山梨(26)、大阪(14)、徳島(13)、奈良(9)、愛媛(6)	↑			
	ピーマン	276.65	333 (120%)	346 (125%)	350 (127%)	276.65	・入荷量: 2,425t ・主産地: 茨城(55)、岩手(26)、福島(9)	↑	<ul style="list-style-type: none"> <li>茨城産は、初期着果が良かった中、終盤を迎えて、草勢があまり良くなく、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。岩手産は、低温や日照不足のために生育が緩慢になっているものの、大きな影響はなく、引き続き平年並みの出荷の見込み。</li> <li>岩手産の出荷が平年並みと見込まれるもの、茨城産の出荷が平年よりやや少なめと見込まれることから、現在平年を上回っている価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。</li> </ul>		
		293.32	285 (97%)	316 (108%)	360 (123%)	293.32	・入荷量: 499t ・主産地: 青森(14)、兵庫(14)、高知(12)、大分(12)、北海道(8)	↑			
	だいこん	86.59	66 (76%)	91 (105%)	89 (103%)	94.60	・入荷量: 8,908t ・主産地: 北海道(60)、青森(35)	↑	<ul style="list-style-type: none"> <li>北海道産は、生育は順調となっていることから、平年より多めの出荷となっているものの、今後は後続産地において長雨等の天候不順の影響が懸念され、平年並みの出荷の見込み。青森産は、天候は概ね良好で、生育は順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。</li> <li>北海道産及び青森産の出荷が平年並みと見込まれることから、現在平年並みの価格は、引き続き平年並みに推移する見込み。</li> </ul>		
		89.53	65 (73%)	99 (111%)	99 (111%)	95.37	・入荷量: 3,071t ・主産地: 北海道(70)、青森(16)、岐阜(11)	↑			
根菜類	にんじん	133.01	128 (96%)	125 (94%)	112 (84%)	133.01	・入荷量: 6,584t ・主産地: 青森(44)、北海道(31)、千葉(21)	↑	<ul style="list-style-type: none"> <li>北海道産は、5月の天候不順の影響から生育が遅れ気味で、平年より少なめの出荷となっているが、今後は、天候が回復すると見込まれることから、平年よりやや少なめの出荷の見込み。青森産は、天候は概ね良好で適度な降雨もあることから生育は順調となっており、引き続き平年並みの出荷の見込み。</li> <li>北海道産の出荷が平年よりやや少なめに回復すると見込まれるもの、青森産の出荷が平年並みと見込まれることから、現在平年を下回っている価格は、引き続き平年を下回って推移する見込み。</li> </ul>		
		132.62	131 (99%)	134 (101%)	115 (87%)	132.62	・入荷量: 1,546t ・主産地: 青森(51)、北海道(33)、和歌山(10)	↑			

## 1 主要野菜の生産出荷状況

種類	(参考)保証基準額の算定の基となる平均価格	6月の価格情報			7月 (参考)保証基準額の算定の基となる平均価格	入荷量及び主要産地	生育及び価格の7月上旬までの見通し			「図の見方」 現時点の価格水準 今後の価格水準 平均価格			
		指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売価額					入荷量及び主要産地						
		上旬	中旬	下旬									
いも類	さといも	361.20	584 (162%)	472 (131%)	515 (143%)	361.20	・入荷量: 264t ・主産地: 宮崎(48)、鹿児島(27)、中国(13)		・宮崎産は、大雨等の天候不良の影響で、入荷が伸びず平年より少なめの出荷となっており、今後も順調な入荷が見込めないことから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。鹿児島産は、次期作の種イモの確保に加え、昨年からの病害が広まっていることから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。				
		347.90	583 (168%)	540 (155%)	564 (162%)	347.90	・入荷量: 60t ・主産地: 鹿児島(65)、宮崎(28)		・宮崎産及び鹿児島産の出荷が平年より少なめと見込まれることから、現在平年を上回っている価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。				
	ばれいしょ	138.39	208 (150%)	195 (141%)	175 (126%)	111.77	・入荷量: 5,653t ・主産地: 茨城(29)、千葉(19)、静岡(15)、長崎(15)、北海道(12)		・茨城産は、天候に恵まれ生育は順調で肥大も良く前進出荷傾向となっていることから、引き続き平年より多めの出荷の見込み。千葉産は、天候に恵まれ生育は順調で、平年よりやや多めの出荷となっているものの、今後は平年並みの出荷の見込み。静岡産は、天候に恵まれ生育は順調で収穫作業も順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。				
		144.98	211 (146%)	211 (146%)	193 (133%)	111.77	・入荷量: 1,223t ・主産地: 北海道(37)、長崎(20)、青森(15)、茨城(9)、千葉(8)、静岡(7)		・茨城産の出荷が平年より多め、千葉産及び静岡産の出荷が平年並みと見込まれることから、現在平年を上回っている価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。				

注: 1 平均価格は、過去5年間(平成20~25年)の関東及び近畿ブロックの中央卸売市場の各指定野菜の卸売価格を物価指数で修正した価格の平均(消費税は除く)で、保証基準額の算定の基となる価格。

2 旬別平均販売価額の赤字は平均価格を150%以上回るものの、背景あるいは保証基準額(平均価格の90%)を下回るもの(消費税は除く)であるが、必ずしも事業が発動するとは限らないため、あくまで参考である。

3 単位は円/1kg、上段は関東、下段は近畿ブロック。

4 入荷量は、東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷5年平均の数値である。

5 主産地は、東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。( )内は入荷シェアで前年実績である。

6 コメントは、都道府県、出荷団体、都道府県野菜価格安定法人、卸売会社等からの聞き取りをもとに機構が作成したもの。

種類	(参考)過去5年平均価格	6月の価格情報			7月 (参考)過去5年平均価格	入荷量及び主要産地	生育及び価格の7月上旬までの見通し			「図の見方」 現時点の価格水準 今後の価格水準 平均価格			
		東京・大阪市の旬別価格					入荷量及び主要産地						
		上旬	中旬	下旬									
洋菜類	ブロッコリー	371.45	463 (125%)	569 (153%)	523 (141%)	359.68	・入荷量: 1,781t ・主産地: 北海道(59)、長野(23)、米国(10)		・北海道産は、日照不足気味ではあるが、適度な降雨もあり、生育は概ね順調で、作付面積が増加していることから、引き続き平年より多めの出荷の見込み。長野産は、適度な降雨により生育は順調なことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。				
		376.30	449 (119%)	562 (149%)	567 (151%)	374.14	・入荷量: 535t ・主産地: 北海道(46)、長野(36)		・北海道産が平年より多め、長野産が平年並みと見込まれ、現在の出荷状況が続くと見込まれることから、現在平年を上回っている価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。				
	アスパラガス	1103.17	1,340 (121%)	1,373 (124%)	1,227 (111%)	990.95	・入荷量: 706t ・主産地: 佐賀(21)、栃木(18)、長崎(16)、福島(12)		・佐賀産は、出荷最盛期に向け、生育は順調なことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。栃木産は、平年並みの出荷となっていたが、前進出荷傾向となってきており、今後平年より多めの出荷の見込み。長崎産は、生育に適した気温高・降雨による多湿の気候により生育が順調であったことから、平年よりやや多めの出荷となっているが、今後は平年並みの出荷の見込み。				
		1093.69	1,301 (119%)	1,310 (120%)	1,179 (108%)	854.32	・入荷量: 216t ・主産地: 福岡(24)、佐賀(18)、長崎(16)、タイ(10)		・栃木産、佐賀産及び長崎産の出荷が平年より多め、若しくは平年並みと見込まれることから、現在平年を上回っている価格は、平年並みに推移する見込み。				
果菜類	かぼちゃ	209.73	222 (106%)	224 (107%)	234 (112%)	216.73	・入荷量: 2,683t ・主産地: 茨城(26)、神奈川(22)、鹿児島(12)、栃木(8)		・茨城産は、作付面積はやや減少しているものの、出荷ピークを迎える中、生育は概ね順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。神奈川産は、天候は概ね良好で生育は順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。鹿児島産は、天候に恵まれており、引き続き平年並みの出荷の見込み。栃木産は、順調な生育となっており、引き続き平年並みの出荷の見込み。				
		153.06	116 (76%)	144 (94%)	127 (83%)	165.00	・入荷量: 1,032t ・主産地: 長崎(31)、石川(18)、NZ(15)、韓国(8)		・茨城産、神奈川産、鹿児島産及び栃木産の出荷が、平年並みと見込まれることから、現在平年を上回っている価格は、平年並みに推移する見込み。				

注: 1 平均価格は、過去5年(平成23~27年)の東京都及び大阪市中央卸売市場の価格。

2 旬別価格は、上段は東京都中央卸売市場、下段は大阪市中央卸売市場であり、単位は円/1kgである。

3 旬別価格の赤字は、平均価格を150%以上回るもの、背景あるいは平均価格を80%を下回るもの(消費税は除く)であるが、必ずしも事業が発動するとは限らないため、あくまで参考である。

4 入荷量は、東京都及び大阪市中央卸売市場の過去5年平均の数値である。

5 主産地は、東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。( )内は入荷シェアで前年実績である。

## 2 野菜の輸出入動向 一 輸出入数量と主な生鮮野菜の輸出入先について 一

区分	野菜の輸入数量						野菜の輸出数量						
	平成25年	平成26年		平成27年		平成28年5月		平成25年	平成26年		平成27年		
		前年比	前年比	前年比	前年比	前年同月比	前年同月比		前年比	前年比	前年比	前年同月比	
生鮮野菜	854,420	90	884,735	104	826,833	93	65,956	86	344,612	89	9,302	145	
加工野菜	1,854,679	97	1,785,487	96	1,752,341	98	151,711	99	704,802	96	14,174	122	
野菜合計	2,709,100	95	2,670,222	99	2,579,175	97	217,667	95	1,049,414	94	23,476	130	
うち中国産野菜合計	1,416,557	97	1,409,604	100	1,355,497	96	100,670	91	500,803	92	26,490	113	
中国産シェア	52		53		53		46		48		43,429	164	
主な野菜の輸入先(平成28年5月) (単位:トン)													
輸入合計	1位		2位		3位		輸入合計	1位		2位		3位	
	国名	数量	国名	数量	国名	数量		国名	数量	国名	数量	国名	数量
1 たまねぎ	19,273	中国	15,229	ニュージーランド	3,277	オーストラリア	719	27,825	中国	22,485	ニュージーランド	4,689	オーストラリア
2 かぼちゃ	11,963	メキシコ	8,000	ニュージーランド	3,963			13,172	メキシコ	8,561	ニュージーランド	4,612	
3 にんじん及びかぶ	4,938	中国	4,141	ベトナム	297	ニュージーランド	296	6,520	中国	6,305	オーストラリア	76	ニュージーランド
4 ばれいしょ	4,532	米国	4,523	中国	9			1,997	米国	1,997			
5 ジャンボピーマン	4,4												